

11月の衛研検査情報

～トピックス～

残留農薬検査（平成26年度 その2）

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成26年6月から7月までに食品専門監視班及び南部市場食品衛生検査所より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

主な結果

《市内産農産物》

6月に搬入されたじゃがいも（3検体）、きゅうり及びトマト（各2検体）、なす及びにんじん（各1検体）、7月に搬入されたなす（5検体）、こまつな（2検体）、にんじん（1検体）の計17検体について検査を行いました。

その結果、きゅうり、こまつな各1検体、トマト2検体及びなす3検体から計6種類8項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

《国内産農産物》

7月に搬入されたキャベツ、きゅうり、トマト及びレタス（各1検体）の計4検体について検査を行いました。

その結果、トマト及びレタスから計4種類5項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

《輸入農産物》

6月に搬入されたオレンジ、グレープフルーツ、パイナップル、バナナ及びレモン（各1検体）、7月に搬入されたパプリカ（1検体）の計6検体について検査を行いました。

その結果、グレープフルーツ、バナナ、パプリカ及びレモンから計5種類5項目の農薬が検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。



主な結果 平成26年10月は、クロストリジウム-ディフィシル感染症、B群レンサ球菌（GBS）感染症、死亡率・致死率（致命率）・死亡割合に関するページのアクセスが多くみられ、総件数は133,077件でした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/>



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。